

# auAMレバレッジ NASDAQ100 為替ヘッジ無し

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式／特殊型（その他）	
信託期間	無期限	
運用方針	auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券を高位に組み入れることにより、純資産総額の2倍程度のNASDAQ100指数先物（米ドルベース）を買い建てるとともに、為替予約取引等により純資産総額程度の米ドルを保有します。これにより、純資産の2倍程度のNASDAQ100指数（米ドルベース）のリターンと、純資産相当の米ドル保有に伴うリターンの獲得をめざして運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド	auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンドの受益証券、指数連動有価証券、外国為替取引
	auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンド	米国の株価指数先物取引、米国の債券および国内の債券
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	無制限
分配方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・分配対象額は、経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額を含みます。）および売買益（評価益を含みます。ただし、マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額を除きます。）等の全額とします。</li><li>・原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</li></ul>	

## 運用報告書（全体版）

第1期

（決算日 2025年7月28日）

（作成対象期間 2024年7月26日～2025年7月28日）

### 受益者の皆様へ

平素より格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンドの受益証券を高位に組み入れることにより、純資産総額の2倍程度のNASDAQ100指数先物（米ドルベース）を買い建てるとともに、為替予約取引等により純資産総額程度の米ドルを保有します。これにより、純資産の2倍程度のNASDAQ100指数（米ドルベース）のリターンと、純資産相当の米ドル保有に伴うリターンの獲得をめざしております。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### auアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区西神田三丁目2番1号



ホームページ

<https://www.kddi-am.com/>



お問い合わせ先 03-5657-7185

（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

## ■設定以来の運用実績

決算期	基準価額			NASDAQ100指数 (円ベース)		株式先物 比率	公社債 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税引前 分配金	期中 騰落率	(参考指数)	期中 騰落率			
(設定日) 2024年7月26日	円 10,000	円 —	% —	10,000	—	% —	% —	百万円 787
1期(2025年7月28日)	12,988	0	29.9	11,940	19.4	199.6	19.9	19,808

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。また、期中騰落率は、期末の基準価額(税引前分配金含む)を設定日の基準価額で除して算出したものです。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注3) NASDAQ100指数(円ベース)は、NASDAQ100指数(米ドルベース)の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000としてauアセットマネジメントが計算したものです。

(注4) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注6) 株式先物比率は買建比率-売建比率です。

(注7) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式先物比率」、「公社債組入比率」は、実質組入比率を記載しております。

■当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		NASDAQ100指数(円ベース)		株式先物 比 率	公 社 債 組入比率
		騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率		
(設定日)2024年7月26日	円 10,000	% —	10,000	—	% —	% —
7月末	9,843	△ 1.6	9,873	△ 1.3	202.9	—
8月末	9,772	△ 2.3	9,650	△ 3.5	198.9	—
9月末	10,257	2.6	9,857	△ 1.4	199.5	—
10月末	11,398	14.0	10,814	8.1	197.7	25.9
11月末	11,511	15.1	10,805	8.1	201.6	24.4
12月末	12,779	27.8	11,744	17.4	194.0	21.5
2025年1月末	12,404	24.0	11,488	14.9	200.8	22.5
2月末	10,914	9.1	10,646	6.5	206.9	25.1
3月末	9,513	△ 4.9	9,988	△ 0.1	201.5	27.6
4月末	8,999	△10.0	9,657	△ 3.4	198.1	27.3
5月末	10,763	7.6	10,660	6.6	204.6	22.7
6月末	11,991	19.9	11,326	13.3	198.0	20.6
(期 末)2025年7月28日	12,988	29.9	11,940	19.4	199.6	19.9

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定日比です。

(注2) NASDAQ100指数(円ベース)は、NASDAQ100指数(米ドルベース)の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000としてauアセットマネジメントが計算したものです。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

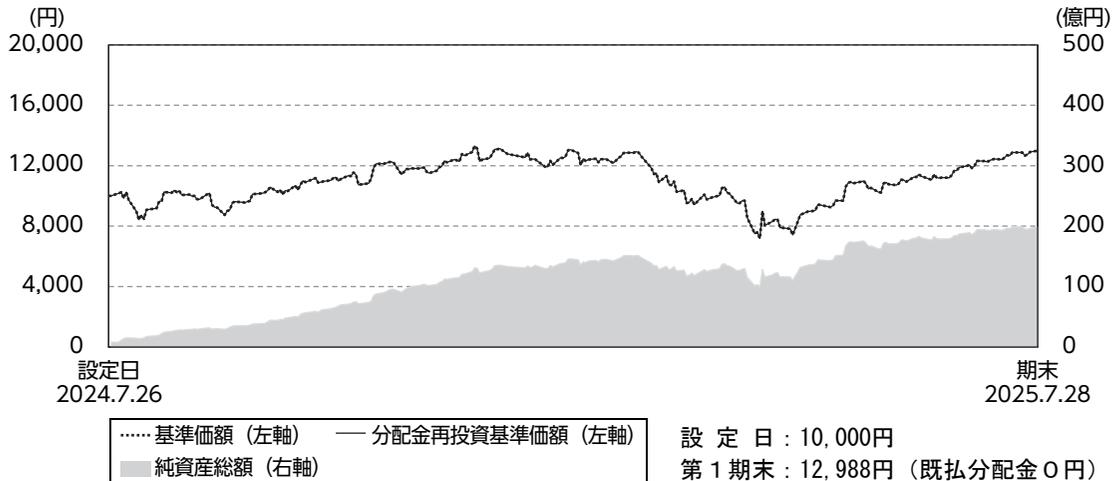
(注5) 株式先物比率は買建比率-売建比率です。

(注6) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式先物比率」、「公社債組入比率」は、実質組入比率を記載しております。

当ファンドは、Nasdaq, Inc. またはその関連会社（以下、Nasdaq, Inc. およびその関連会社を「株式会社」と総称します。）によって、支援、推奨、販売または販売促進されるものではありません。株式会社は、ファンドの合法性もしくは適合性について、または当ファンドに関する記述および開示の正確性もしくは妥当性について認定するものではありません。株式会社は、当ファンドの保有者または公衆一般のいかなる者に対しても、一般的な証券投資または特に当ファンドへの投資についての妥当性や、NASDAQ-100 Index®の一般的な株式市況への追従可能性について、明示的か黙示的かを問わず、何らの表明もしくは保証も行いません。株式会社とauアセットマネジメント株式会社との関係は、Nasdaq®およびNASDAQ-100 Index®の登録商標ならびに株式会社の一定の商号について使用を許諾すること、ならびに、auアセットマネジメント株式会社または当ファンドとは無関係に、ナスダックが決定、構築および算出を行うNASDAQ-100 Index®の使用を許諾することに限られます。ナスダックは、NASDAQ-100 Index®の決定、構築および計算に関し、auアセットマネジメント株式会社または当ファンドの保有者の要望を考慮する義務を負いません。株式会社は、当ファンドの発行に関してその時期、価格もしくはその数量の決定について、または当ファンドを換金する際の算式の決定もしくは計算についての責任を負っておらず、また関与をしていません。株式会社は、NASDAQ-100 Index®とそれに含まれるデータの正確性および中断されない算出を保証しません。株式会社は、NASDAQ-100 Index®またはそれに含まれるデータの利用により、auアセットマネジメント株式会社、当ファンドの保有者またはその他いかなる者もしくは組織に生じた結果についても、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行いません。株式会社は、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行わず、かつNASDAQ-100 Index®またはそれに含まれるデータの利用に関する、特定の目的または利用のための市場商品性または適合性については、いかなる保証についても明示的に否認します。上記に限らず、いかなる場合においても、株式会社は、いかなる逸失利益または特別、付随的、懲罰的、間接的もしくは派生的損害や損失について、たとえもし当該損害等の可能性につき通知されていたとしても、何らの責任も負いません。

■運用経過

□基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などにより課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

□基準価額の主な変動要因

auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンドの受益証券を高位に組み入れることにより、純資産総額の2倍程度のNASDAQ100指数先物(米ドルベース)を買い建てるとともに、為替予約取引等により純資産総額程度の米ドルを保有します。これにより、純資産の2倍程度のNASDAQ100指数(米ドルベース)のリターンと、純資産相当の米ドル保有に伴うリターンの獲得をめざした運用を行った結果、当期の基準価額・分配金再投資基準価額は29.9%上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## □投資環境について

(2024年7月26日～2025年7月28日)

## ＜株式市況＞

期中のNASDAQ100指数は上昇しました。期初は日銀の利上げ決定によるグローバル投資資金の巻き戻しや、8月の米雇用統計の悪化による米景気後退懸念の高まりから、急激なリスクオフ相場となり株式市場は大幅に下落しましたが、その後は同懸念が和らぐと反発上昇基調で推移しました。9月後半から10月半ばにかけては上値の重い展開が続きましたが、その後米景気のソフトランディング観測が強まり上昇しました。11月には米大統領選挙結果を受けて大きく上昇し12月半ばまではAIブームなどが下支え要因となり、同指数は上昇基調で推移しました。1月に入ると金利上昇への嫌気などから軟調な値動きとなりましたが、米CPI後は反発上昇に転じました。月末にかけては上昇基調で推移しましたが、中国のスタートアップ企業、DeepSeekのAIモデルの台頭により米テック企業の優位性に対する懸念が高まり、同指数は大幅下落しました。その後はトランプ大統領による関税政策がグローバル経済に大きくマイナスの影響を与えるとの見方から、投資家のリスク回避姿勢が強まり、同指数は下落しました。4月には米国の相互関税発表を受けて世界的に急激なリスクオフが進行しましたが、月半ば以降は貿易戦争のエスカレート懸念が後退したことなどから買い戻しの動きが優勢となり同指数は上昇しました。5月には米中両政府が関税を引き下げたことで投資家センチメントが改善し、4月下旬からの反発上昇基調が継続しました。その後も米国による関税リスクへの警戒感が薄れ、堅調な経済指標や企業決算、ボラティリティ低下などを背景に同指数は上昇し期末を迎えました。

## ＜為替市況＞

期中の為替市場では円高米ドル安となりました。期初は日銀の利上げ決定や米景気後退懸念の高まりから円高米ドル安が進行しました。その後は米経済指標に底堅さが確認され、9月中旬のFOMCでは50bpの利下げが決定されると米景気後退懸念が和らぎ、米ドル円市場では円安ドル高が進行し、上昇基調は年末まで継続しました。2025年に入ると、次第に米国関税政策による景気減速懸念が高まり、足もと上昇基調であった米CPIにピークアウト感が見られ、加えて1月下旬には日銀が追加利上げを決定したことなどから、円高米ドル安が進行しました。その後も同基調は継続し、4月の米相互関税発表を受けて急激なリスクオフが発生した局面では一段と円高米ドル安が進行しました。しかし、同月半ば以降は貿易戦争のエスカレート懸念が後退したことで、米ドル円市場にも反発の動きが見られ、その後も米中両政府による関税引き下げ発表や、米国を中心とした堅調な経済指標や企業決算、ボラティリティ低下などを背景にリスクオン相場となり、期末まで緩やかな円安米ドル高が進行しました。

## □ポートフォリオについて

## ＜当ファンド＞

当ファンドの運用方針に基づき、auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンドの受益証券を高位に組み入れることにより、純資産総額の2倍程度のNASDAQ100指数先物（米ドルベース）を買い建てるとともに、為替予約取引等により純資産総額程度の米ドルを保有します。これにより、純資産の2倍程度のNASDAQ100指数（米ドルベース）のリターンと、純資産相当の米ドル保有に伴うリターンの獲得をめざした運用を行いました。

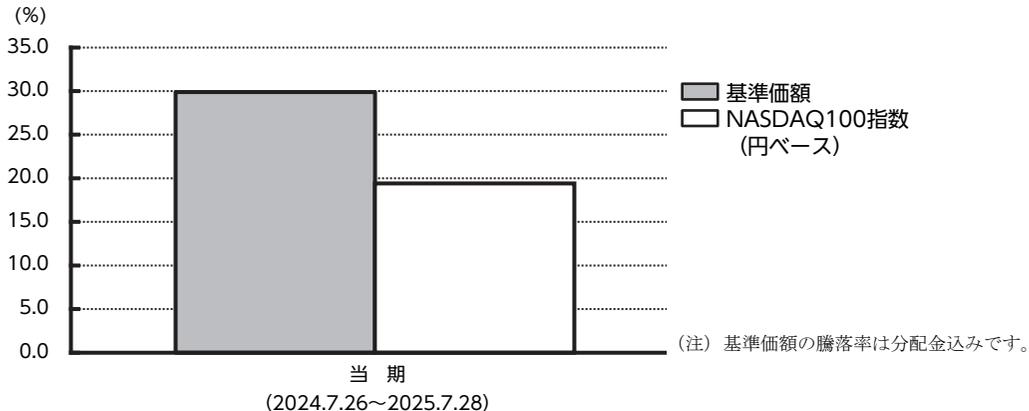
## ＜auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンド＞

株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、原則として、信託財産の純資産総額の2倍程度になるように調整しました。また、コール・ローン等による運用も行いました。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

米国の株価指数先物取引については、E-mini NASDAQ100種株価指数先物取引を利用しました。米国の株式への直接投資は行っておりません。

## □ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## □分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### <分配原資の内訳（1万口当り）>

項目	当期
	2024年7月26日～2025年7月28日
当期分配金（税引前）（円）	0
（対基準価額比率）（％）	(0.00)
当期の収益（円）	—
当期の収益以外（円）	—
翌期繰越分配対象額（円）	2,988

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## ■今後の運用方針

### <当ファンド>

当ファンドの運用方針に基づき、auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、純資産総額の2倍程度のNASDAQ100指数先物（米ドルベース）を買い建てるとともに、為替予約取引等により純資産総額程度の米ドルを保有します。これにより、純資産の2倍程度のNASDAQ100指数（米ドルベース）のリターンと、純資産相当の米ドル保有に伴うリターンの獲得をめざします。

### <auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンド>

主として、米国の株価指数先物取引を買い建てます。株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、原則として、信託財産の純資産総額の2倍程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（米ドルベース）の値動きの2倍程度となることをめざします。また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

※上記見通しと投資方針については、作成日時点における見通し、投資方針であり、今後予告なく変更される場合があります。

## ■ 1万口当りの費用の明細

項目	当期 (2024. 7. 26~2025. 7. 28)		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
運用管理費用 (信託報酬)	48円	0.437%	運用管理費用(信託報酬)＝当期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>当期中の平均基準価額は10,961円です。</b>
(投信会社)	(22)	(0.205)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販売会社)	(22)	(0.205)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(3)	(0.028)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	2	0.018	売買委託手数料＝当期中の売買委託手数料／当期中の平均受益権口数
(先物・オプション)	(2)	(0.018)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝当期中の有価証券取引税／当期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0.006	その他費用＝当期中のその他費用／当期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.000)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.006)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合計	50	0.461	

(注1) 当期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

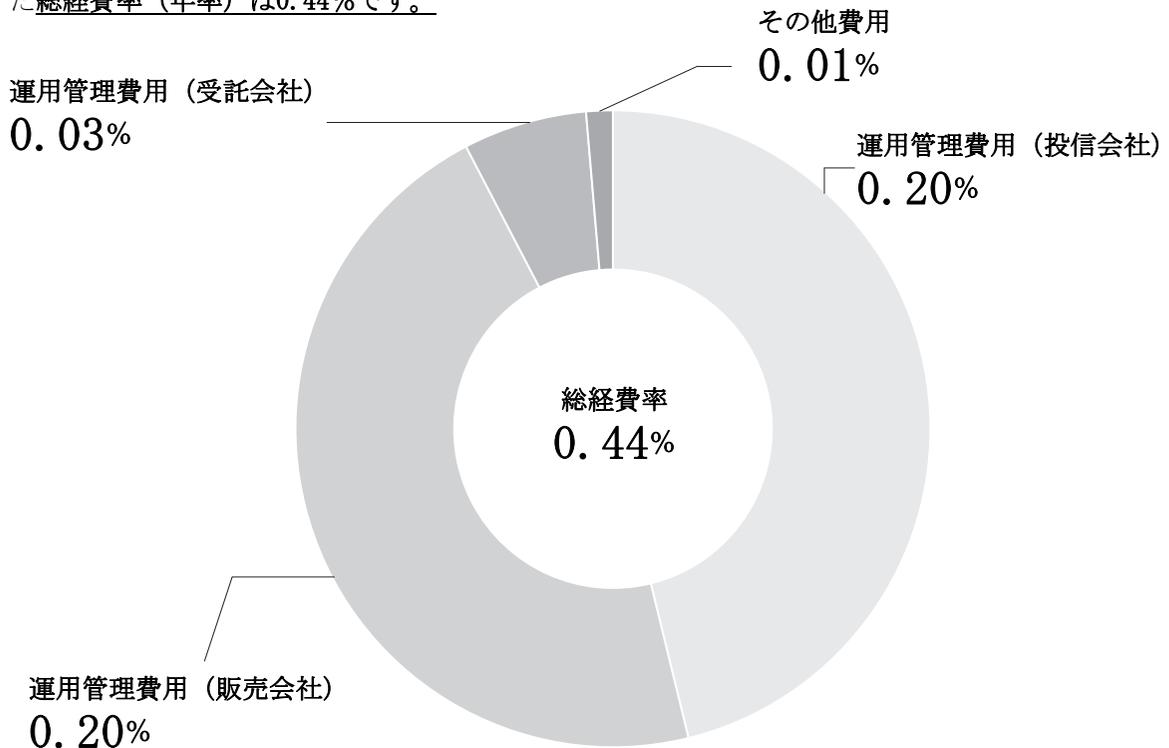
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。

## (参考情報)

## ■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.44%です。**



(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

## ■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2024年7月26日から2025年7月28日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンド	千口 11,644,223	千円 20,744,300	千口 2,543,528	千円 4,687,400

(注) 単位未満は切捨て。

## ■利害関係人との取引状況等 (2024年7月26日から2025年7月28日まで)

当期中における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ■組入資産明細表

親投資信託残高

	当 期 末	
	口 数	評 価 額
auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンド	千口 9,100,695	千円 19,695,724

(注) 単位未満は切捨て。

## ■投資信託財産の構成

2025年7月28日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンド	千円 19,695,724	% 97.9
コール・ローン等、その他	423,486	2.1
投資信託財産総額	20,119,211	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、7月28日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=147.77円です。

(注3) auAMレバレッジ NASDAQ100マザーファンドにおいて、当期末における外貨建資産(20,640,637千円)の投資信託財産総額(50,697,190千円)に対する比率は、40.7%です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

2025年7月28日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	40,622,636,703円
コー ル ・ ロ ー ン 等	322,667,709
auAM レバレッジ NASDAQ100 マザーファンド(評価額)	19,695,724,517
未 収 入 金	20,604,244,477
(B) 負 債	20,814,531,326
未 払 金	20,661,686,761
未 払 解 約 金	119,267,191
未 払 信 託 報 酬	33,187,374
そ の 他 未 払 費 用	390,000
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	19,808,105,377
元 本	15,250,572,619
次 期 繰 越 損 益 金	4,557,532,758
(D) 受 益 権 総 口 数	15,250,572,619口
1 万 口 当 たり 基 準 価 額 (C / D)	12,988円

(注1) 設定日における元本額は787,702,055円、当期中における追加設定元本額は23,230,316,005円、同解約元本額は8,767,445,441円です。

(注2) 当期末の計算口数当りの純資産額は12,988円です。

■損益の状況

当期 自2024年7月26日 至2025年7月28日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	990,181円
受 取 利 息	990,181
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	3,451,912,151
売 買 益	6,331,922,730
売 買 損	△2,880,010,579
(C) 信 託 報 酬 等	△ 50,118,555
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	3,402,783,777
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	1,154,748,981
( 配 当 等 相 当 額 )	( 519,776)
( 売 買 損 益 相 当 額 )	( 1,154,229,205)
(F) 合 計 ( D + E )	4,557,532,758
次 期 繰 越 損 益 金 ( F )	4,557,532,758
追 加 信 託 差 損 益 金	1,154,748,981
( 配 当 等 相 当 額 )	( 29,004,043)
( 売 買 損 益 相 当 額 )	( 1,125,744,938)
分 配 準 備 積 立 金	3,402,783,777

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「分配金の計算過程」をご参照ください。

分配金の計算過程

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	155,124,851円
(b) 経費控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益	3,247,658,926円
(c) 収益調整金	1,154,748,981円
(d) 分配準備積立金	0円
(e) 分配対象額 (a+b+c+d)	4,557,532,758円
(f) 分配対象額 (1万口当たり)	2,988.43円
(g) 分配金	0円
(h) 分配金 (1万口当たり)	0円

## ■お知らせ

投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款の「運用報告書」に関する条文を変更しました。

(変更日 2025年4月1日)

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。

### 収益分配金のお知らせ

1 万口当り分配金

0 円

- ・ 分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・ 分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・ 分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・ 元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

## auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンド

## 運用報告書 第3期（決算日 2025年7月28日）

（作成対象期間 2024年7月30日～2025年7月28日）

auAM レバレッジ NASDAQ100マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

## ★当ファンドの仕組みは次の通りでした。

運用方針	日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（米ドルベース）の値動きの2倍程度となることをめざして運用を行います。
主要投資対象	米国の株価指数先物取引、米国の債券および国内の債券
株式組入制限	無制限

auアセットマネジメント株式会社

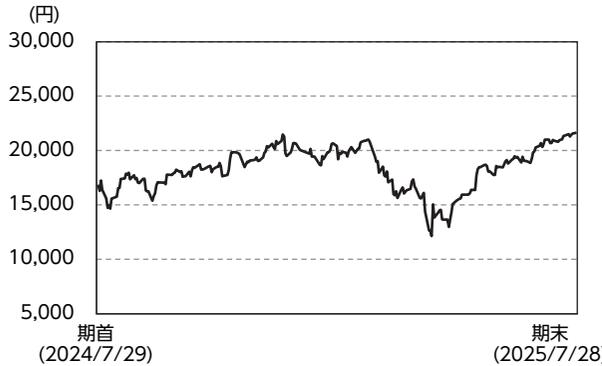
東京都千代田区西神田三丁目2番1号



ホームページ

<https://www.kddi-am.com/>

■当期中の基準価額と市況等の推移



年月日	基準価額		NASDAQ100指数 (米ドルベース)		株式先物	公社債
	円	%	(参考指数)	期中騰落率	比率	組入比率
(期首)2024年7月29日	16,697	—	14,958	—	202.6	—
7月末	16,283	△ 2.5	14,779	△ 1.2	201.2	—
8月末	17,004	1.8	15,196	1.6	201.1	—
9月末	18,019	7.9	15,733	5.2	200.9	—
10月末	18,565	11.2	16,031	7.2	203.6	26.7
11月末	19,047	14.1	16,311	9.0	200.4	24.3
12月末	20,055	20.1	16,884	12.9	202.4	22.4
2025年1月末	19,866	19.0	16,912	13.1	201.2	22.5
2月末	17,965	7.6	16,159	8.0	208.4	25.3
3月末	15,631	△ 6.4	15,161	1.4	204.0	27.9
4月末	15,569	△ 6.8	15,368	2.7	198.0	27.3
5月末	18,500	10.8	16,798	12.3	201.9	22.4
6月末	20,435	22.4	17,719	18.5	200.6	20.8
(期末)2025年7月28日	21,642	29.6	18,299	22.3	200.7	20.1

- (注1) 騰落率は期首比です。
- (注2) NASDAQ100指数(米ドルベース)は、NASDAQ100指数(米ドルベース)の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000としてauアセットマネジメントが計算したものです。
- (注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
- (注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。
- (注5) 株式先物比率は買建比率-売建比率です。

■運用経過

□基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首時：16,697円 期末時：21,642円  
騰落率：29.6%

【基準価額の変動要因】

株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、信託財産の純資産総額の2倍程度になるように調整し、日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数

(米ドルベース)の値動きの2倍程度となることをめざした運用を行った結果、当期の基準価額・分配金再投資基準価額は29.6%上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

□投資環境について

＜株式市況＞

期中のNASDAQ100指数は上昇しました。期初は日銀の利上げ決定によるグローバル投資資金の巻き戻しや、8月の米雇用統計の悪化による米景気後退懸念の高まりから、急激なリスクオフ相場となり株式市場は大幅に下落しましたが、その後は同懸念が和らぐと反発上昇基調で推移しました。9月後半から10月半ばにかけては上値の重い展開が続きましたが、その後米景気のソフトランディング観測が強まり上昇しました。11月には米大統領選挙結果を受けて大きく上昇し12月半ばまではAIブームなどが下支え要因となり、同指数は上昇基調で推移しました。1月に入ると金利上昇への嫌気などから軟調な値動きとなりましたが、米CPI後は反発上昇に転じました。月末にかけては上昇基調で推移しましたが、中国のスタートアップ企業、DeepSeekのAIモデルの台頭により米テック企業の優位性に対する懸念が高まり、同指数は大幅下落しました。その後はトランプ大統領による関税政策がグローバル経済に大きくマイナスの影響を与えるとの見方から、投資家のリスク回避姿勢が強まり、同指数は下落しました。4月には米国の相互関税発表を受けて世界的に急激なリスクオフが進行しましたが、月半ば以降は貿易戦争のエスカレート懸念が後退したことなどから買い戻しの動きが優勢となり同指数は上昇しました。5月には米中両政府が関税を引き下げたことで投資家センチメントが改善し、4月下旬からの反発上昇基調が継続しました。その後も米国による関税リスクへの警戒感が薄れ、堅調な経済指標や企業決算、ボラティリティ低下などを背景に同指数は上昇し期末を迎えました。

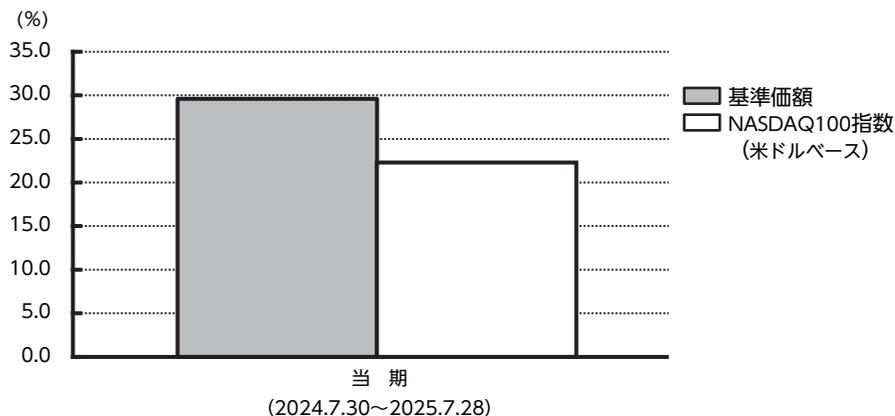
□ポートフォリオについて

株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、原則として、信託財産の純資産総額の2倍程度になるように調整しました。また、コール・ローン等による運用も行いました。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

米国の株価指数先物取引については、E-mini NASDAQ100種株価指数先物取引を利用しました。米国の株式への直接投資は行っておりません。

## □ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## ■今後の運用方針

主として、米国の株価指数先物取引を買い建てます。株価指数先物取引の買建玉の時価総額が、原則として、信託財産の純資産総額の2倍程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがNASDAQ100指数（米ドルベース）の値動きの2倍程度となることをめざします。また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

## ■ 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (先物・オプション)	3円 ( 3)
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用) (その他)	0 ( 0) ( 0)
合 計	3

(注1) 費用の項目および算法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

## ■ 売買および取引の状況

### (1) 公社債

(2024年7月30日から2025年7月28日まで)

		買 付 額	売 付 額
国内		千円	千円
	国債証券	29,968,860	19,998,420 ( — )

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

### (2) 先物取引の種類別取引状況

(2024年7月30日から2025年7月28日まで)

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
外国		百万円	百万円	百万円	百万円
	株式先物取引	487,283	453,353	—	—

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

## ■先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2024年7月30日から2025年7月28日まで)

銘柄別			買 建		売 建		作 成 期 末 評 価 額		
			新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額	買 建 額	売 建 額	評価損益
外国	株式	NASDAQ 100	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
		E-MINI (アメリカ)	487,283	453,353	—	—	99,883	—	4,978

(注) 単位未満は切捨て。

## ■主要な売買銘柄

(1) 公社債

(2024年7月30日から2025年7月28日まで)

当 期			
買 付		売 付	
銘柄	金額	銘柄	金額
	千円		千円
1261国庫短期証券	9,996,180	1296国庫短期証券	9,999,320
1296国庫短期証券	9,991,570	1261国庫短期証券	9,999,100
1311国庫短期証券	9,981,110		

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

(2) 先物取引の銘柄別取引状況

銘柄別		当 期 末	
		買 建 額	売 建 額
外国		百万円	百万円
	NASDAQ 100 E-MINI	99,883	—

(注1) 外貨建の評価額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 国内（邦貨建）公社債（種類別）

作成期 区分	当 期			末			
	額面金額	評 価 額	組 入 率	うちBB格 以下組 入率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円 10,000,000 (10,000,000)	千円 9,984,820 (9,984,820)	% 20.1 (20.1)	% — (—)	% — (—)	% — (—)	% 20.1 (20.1)
合 計	10,000,000 (10,000,000)	9,984,820 (9,984,820)	20.1 (20.1)	— (—)	— (—)	— (—)	20.1 (20.1)

(注1) ( )内は非上場債で内書き。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

区 分	当 期			末	
	銘 柄	年利率	額面金額	評 価 額	償還年月日
国債証券	1311国庫短期証券	% —	千円 10,000,000	千円 9,984,820	2025/12/10
合 計	銘柄数 金 額	1銘柄	10,000,000	9,984,820	

(注) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2025年7月28日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 9,984,820	% 19.7
コール・ローン等、その他	40,712,370	80.3
投資信託財産総額	50,697,190	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、7月28日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=147.77円です。

(注3) 当期末における外貨建資産（20,640,637千円）の投資信託財産総額（50,697,190千円）に対する比率は、40.7%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年7月28日現在

項目	当期末
(A) 資産	81,428,859,311円
コール・ローン等	11,085,283,456
公社債（評価額）	9,984,820,520
未収入金	35,973,790,394
差入委託証拠金	24,384,964,941
(B) 負債	31,663,685,990
未払金	31,479,685,990
未払解約金	184,000,000
(C) 純資産総額（A－B）	49,765,173,321
元本	22,994,787,262
次期繰越損益金	26,770,386,059
(D) 受益権総口数	22,994,787,262口
1万口当たり基準価額（C/D）	21,642円

（注1）期首における元本額は16,696,652,785円、当期中における追加設定元本額は12,769,861,418円、同解約元本額は6,471,726,941円です。

（注2）当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、auAMレバレッジ NASDAQ100 13,894,092,078円、auAMレバレッジNASDAQ100為替ヘッジ無し 9,100,695,184円です。

（注3）当期末の計算口数当りの純資産額は21,642円です。

■損益の状況

当期 自2024年7月30日 至2025年7月28日

項目	当期
(A) 配当等収益	533,291,084円
受取利息	575,965,053
支払利息	△ 42,673,969
(B) 有価証券売買損益	△ 610,846,266
売買益	4,317,529,054
売買損	△ 4,928,375,320
(C) 先物取引等損益	11,257,848,165
取引益	24,778,029,613
取引損	△13,520,181,448
(D) その他費用	△ 12,539
(E) 当期損益金（A+B+C+D）	11,180,280,444
(F) 前期繰越損益金	11,181,940,092
(G) 解約差損益金	△ 5,432,273,059
(H) 追加信託差損益金	9,840,438,582
(I) 合計（E+F+G+H）	26,770,386,059
次期繰越損益金（I）	26,770,386,059

（注1）解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

■お知らせ

投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、投資信託約款の「運用報告書」に関する条文を変更しました。

（変更日 2025年4月1日）